

水稻情報 (第5号)

令和2年7月10日
あおば農業協同組合
各地区農業技術者協議会

- 近年に比べ、コシヒカリの草丈は長く、茎数は少なく、葉色はやや淡く推移しています(表1)。
- コシヒカリの幼穂形成期(幼穂が2mm頃)は5月15日田植えで7月10日頃、出穂期は8月1日頃と予想されます(表2)。
- 肥効調節型(基肥一発)肥料でも葉色が薄い場合は、出穂1週間前～出穂直前(走り穂)までに追加穂肥を施用し、適切な葉色に誘導してください。

1. コシヒカリの穂肥施用

～ほ場ごとに確認し、適期穂肥で目指せ品質向上・収量確保!～

○肥効調節型(基肥一発)肥料の場合 (Jコートコシヒカリ (けい酸加里入り含む) 等を施用)

出穂7～10日前(7/22頃)の葉色が4.0(砂壤土は4.2)以下の場合は、追肥3号を出穂3日前までに5～10kg/10a施用しましょう(図1)。

○分施の場合

一回目の穂肥は幼穂長15mm(2mmを確認後8日目)を基本とし、草丈が長く、葉色が濃い場合は、施用時期を遅らせ、減肥してください。極端に草丈が長い場合は、倒伏を回避するため施用を控えましょう(図1、図2)。

表1 JA あおば管内データ：コシヒカリ (7/7調査)

	草丈	茎数		葉令	葉色
R2年	68.2cm	434本/m ²	21.0本/株	11.6	3.9
近年(H27～R1)	67.2cm	485本/m ²	24.1本/株	11.9	4.0

表2 幼穂形成期と出穂日の目安(平坦地)

田植日	幼穂形成期 (コシヒカリ)	出穂日 (コシヒカリ)
5月15日	7月10日頃	8月1日頃

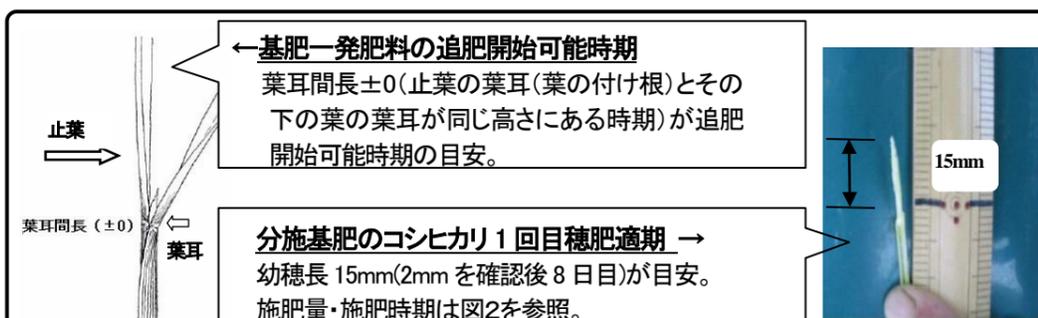


図1 追肥の目安

穂肥時(幼穂長15mm)の生育状況			
生育量	標準	やや旺盛	旺盛
草丈	85cm未満	85～90cm	90cm以上
茎数 (本/m ²)	430本程度	480本程度	500本以上 かつ
葉色	3.6程度	3.8程度	3.8以上

1回目 穂肥 (追肥3号)	2mm確認後 8日目 10kg/10a	2mm確認後 10日目 5～7kg/10a	施用しない
2回目 穂肥 (追肥3号)	1回目の7日後 10～13kg/10a		

図2 分施体系の穂肥量・施用時期の目安

2. てんこもりの穂肥施用

てんこもりの幼穂形成期は7/12頃、出穂期は8/3頃(田植日5/8の場合)と予想されます。

①肥効調節型(基肥一発)肥料の場合

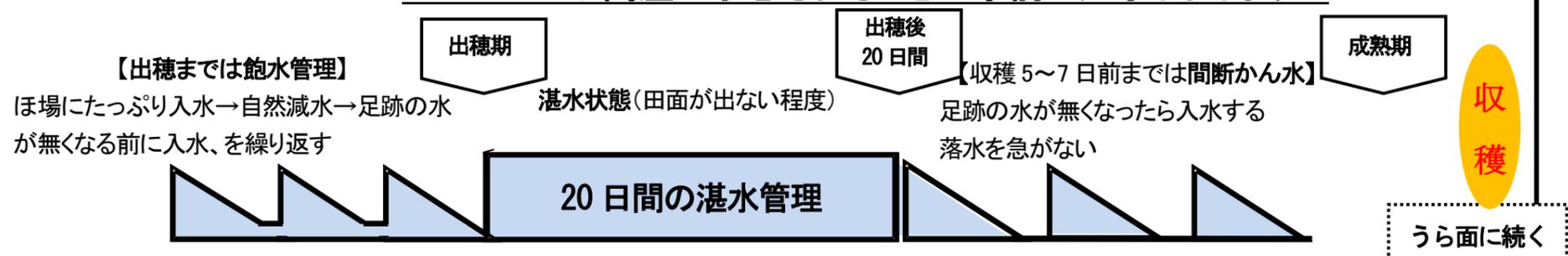
出穂14日前(7/20頃)の葉色が4.0(砂壤土:4.2)以下の場合は、追肥3号を出穂3日前までに7kg/10a施用しましょう。

②分施の場合

1回目の穂肥は幼穂形成期(幼穂長2mm程度の時期:7/12頃)、2回目の穂肥はその10日後に、追肥3号を10～13kg/10aずつ施用しましょう。

3. 今後の水管理

～フェーンや高温が予想される時は事前に入水しましょう～

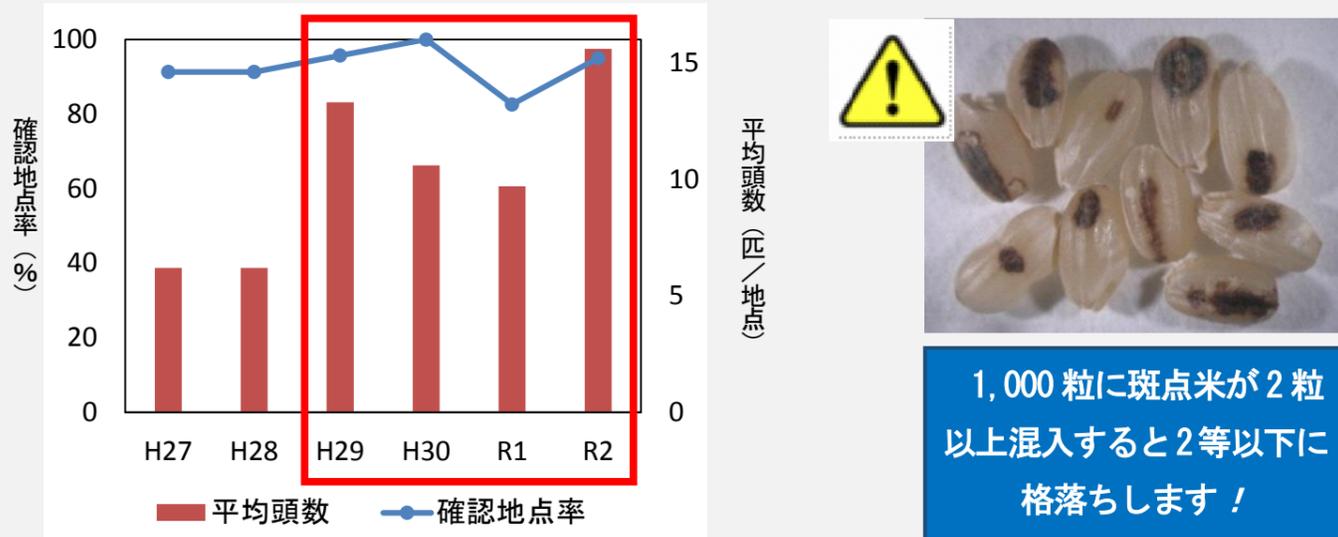


うら面に続く

カメムシ対策 第5回

～草刈りと防除の徹底で斑点米ゼロ!!～

斑点米の原因となるカメムシが多く発生しています！



アヒゲホリミドリカスミカメ



アカシジカスミカメ

1,000粒に斑点米が2粒以上混入すると2等以下に格落ちします！

図3 畦畔・雑草地のカメムシ確認地点率と発生頭数 (JA あおば管内 調査は6月下旬実施)

- カメムシが好むイネ科雑草の穂が出る前に草刈り等を徹底しましょう (およそ3週間間隔)。
※ほ場内のヒエ等が残っている場合も穂が出る前に抜き取りましょう。
- やむを得ず穂の出ている雑草を刈る場合は、本田の薬剤防除の直前に行いましょう。
- 防除の徹底で斑点米を防ぎましょう。特に共同防除を実施することで、効果が高まります。
- 防除の散布間隔は7日間を目安とし、10日間以上あけないようにしましょう (表3)。

表3 防除時期の目安 (平坦地) ～ 穂揃期+傾穂期の2回防除を徹底しましょう! ～

品種	てんたかく	コシヒカリ	てんこもり
出穂予想	7/16～7/18 (連休植)※	7/31～8/2 (5月14日植)※	8/2～8/4 (5月8日植)※
1回目 <small>劇物</small>	穂揃期 7/20～7/22 粉剤: ビームスタークル粉剤 5DL 4kg/10a 液剤: ※ビームエイトスタークルゾル	穂揃期 8/4～8/6 粉剤: ビームスタークル粉剤 5DL 4kg/10a 液剤: ※ビームエイトスタークルゾル	穂揃期 8/6～8/8 粉剤: ビームスタークル粉剤 5DL 4kg/10a 液剤: ※ビームエイトスタークルゾル
	傾穂期 7/27～7/29 粉剤: キラップ粉剤 DL 4kg/10a 液剤: キラップフロアブル	傾穂期 8/11～8/13 粉剤: キラップ粉剤 DL 4kg/10a 液剤: キラップフロアブル	傾穂期 8/13～8/15 粉剤: キラップ粉剤 DL 4kg/10a 液剤: キラップフロアブル
※キラップ粉剤・液剤ともに、使用時期は収穫14日前まで			
3回 (多発時)	【随時】収穫7日前まで 粉剤: スタークル粉剤 DL 3kg/10a 液剤: スタークル液剤 10	【随時】収穫7日前まで 粉剤: スタークル粉剤 DL 3kg/10a 液剤: スタークル液剤 10	【随時】収穫7日前まで 粉剤: スタークル粉剤 DL 3kg/10a 液剤: スタークル液剤 10

- 液剤等の量は1,000倍希釈液を100～150ℓ/10a散布する。
- 農薬の散布前に、使用方法等を再度確認しましょう。また、風の無い時間帯を選んで均一に散布して下さい。(田植時期等により、生育が異なる場合は稲の生育時期に合わせて防除を行いましょう。)

※ビームエイトスタークルゾルが7月1日より【医薬用劇物】に指定されました。お取り扱いにご注意ください。

【粒剤体系 (コシヒカリの場合)】

- 1回目 : 7/22頃 (出穂5～10日前) にイモチエースキラップ粒剤を3kg/10a 湛水してから散布する。
- 2回目 (随時) : 8/5頃 (穂揃期) にスタークル豆つぶを250g/10a 湛水してから散布する。

畦畔まで薬剤がかかるように散布しましょう！



農薬散布は、
周辺のほ場へ飛散しないように
注意しましょう！

水稻情報第6号は、7月29日の発行予定です